

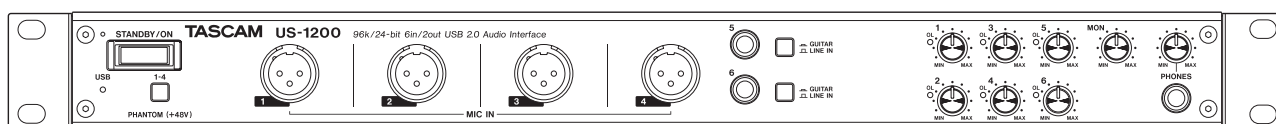
# TASCAM

D01211920A

# US-1200

## USB2.0 Audio Interface







### 取扱説明書



本機をパソコンに接続する前に、専用ドライバーをダウンロードし、パソコンにインストールしておく必要があります。

# 安全にお使いいただくために





製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	<b>警告</b> 以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 電源プラグをコンセントから抜く	<p>万一、異常が起きたら 煙が出た、変なにおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落とした、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター（最終ページに記載）に修理をご依頼ください。</p>
 指示	<p><b>ACアダプターの電源プラグにほこりをためない</b> ACアダプターの電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。定期的（年1回くらい）にACアダプターの電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。</p>
 禁止	<p><b>ACアダプターのコードを傷つけない</b> ACアダプターのコードの上に重い物をのせたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない ACアダプターのコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、ACアダプターのコードが破損したら（芯線の露出、断線など）、販売店またはティアック修理センター（最終ページに記載）をご依頼ください。</p> <p><b>付属のACアダプターや電源コードを他の機器に使用しない</b> 故障、火災、感電の原因となります。</p> <p><b>交流100ボルト以外の電圧で使用しない</b> この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。</p> <p><b>この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し（20cm以上）離して設置する</b> ラックなどに入れるときは、機器の天面から1U以上、背面から10cm以上の隙間を空ける隙間を空けないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p><b>この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込む、または落とさない</b> 火災・感電の原因となります。</p>
 禁止	<p><b>機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない</b> 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。</p>
 分解禁止	<p><b>この機器のカバーは絶対に外さない</b> カバーを外す、または改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター（最終ページに記載）にご依頼ください。</p> <p><b>この機器を改造しない</b> 火災・感電の原因となります。</p>



## 注意

以下の内容が無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

 電源プラグをコンセントから抜く	<p>移動させる場合は、電源のスイッチを切り、必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す コードが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。</p> <p>旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となる場合があります。</p>
 指示	<p>オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明にしたがって接続する また、接続は指定のコードを使用する</p> <p>電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となる場合があります。また、モニター機器などの破損の原因となる場合があります。</p> <p>この機器はコンセントの近くに設置し、ACアダプターの電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐにACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。</p> <p>この機器には、付属の専用ACアダプターや電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。</p>
 禁止	<p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない 火災・感電やけがの原因となる場合があります。</p> <p>ACアダプターの電源プラグを抜くときは、ACアダプターの電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となる場合があります。 必ずプラグを持って抜いてください。</p>
 禁止	<p>濡れた手でACアダプターの電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となる場合があります。</p>
 注意	<p>5年に一度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センター（最終ページに記載）にご相談ください。 内部にほこりがたまったら、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となる場合があります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。</p>

この装置は、クラスB技術情報装置です。この装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書にしたがって正しく取り扱いをしてください。 VCCI-B

# 目次

安全にお使いいただくために .....	2	第8章 仕様 .....	30
第1章 はじめに .....	5	定格 .....	30
本機の概要 .....	5	アナログオーディオ入出力定格 .....	30
本製品の構成 .....	5	アナログオーディオ入力定格 .....	30
本書の表記 .....	5	アナログオーディオ出力定格 .....	30
商標および著作権に関して .....	6	コントロール入出力定格 .....	30
設置上の注意 .....	6	オーディオ性能 .....	30
結露について .....	6	動作条件 .....	31
製品のお手入れ .....	6	Windows .....	31
ユーザー登録について .....	6	Mac OS X .....	31
アフターサービス .....	6	対応オーディオドライバー .....	31
第2章 各部の名称と働き .....	7	一般 .....	31
フロントパネル .....	7	寸法図 .....	32
リアパネル .....	8	オーディオフローダイアグラム .....	33
第3章 インストール .....	9		
必要なシステム .....	9		
Windows .....	9		
Mac OS X .....	9		
電源の接続 .....	9		
ドライバーをインストールする .....	9		
Windows用ドライバーのインストール .....	9		
Mac OS X用ドライバーのインストール .....	11		
Gatekeeperについて .....	11		
ドライバーのアンインストール .....	12		
第4章 接続 .....	14		
USBの接続 .....	15		
オーディオの接続 .....	15		
マイク .....	15		
ギター .....	15		
電子楽器／オーディオ機器など .....	15		
アナログレコードプレーヤー .....	15		
モニタースピーカー .....	15		
ヘッドホン .....	15		
第5章 ミキサーパネルの設定 .....	16		
ミキサーパネルを開く .....	16		
ミキサーパネルについて .....	16		
《INTERFACE》タブ画面 .....	16		
ステータス（状態）表示部 .....	17		
設定項目表示部 .....	17		
《MIXER》タブ画面 .....	18		
《EFFECTS》タブ画面 .....	20		
内蔵エフェクターの使用制限について .....	21		
ダイナミクスエフェクト .....	21		
センドエフェクト .....	23		
設定の初期化（リセット） .....	24		
エフェクト設定の初期化 .....	24		
ミキサー設定の初期化 .....	25		
第6章 アプリケーションガイド .....	26		
Windows XP と Windows Media Player .....	26		
Windows 7 と Windows Media Player .....	26		
Windows 8 と Windows Media Player .....	27		
Mac OS X と iTunes .....	27		
OS X Mavericks（10.9）での オーディオMIDI設定について .....	27		
第7章 トラブルシューティング .....	28		

このたびは、TASCAM USB2.0 Audio Interface US-1200をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになった後は、いつでも見られる所に保管してください。

また取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp>) からダウンロードすることができます。

本機を使ったシステム内の他の機器（ハードディスクや光ディスクなど）の記憶内容を消失した場合の修復に関しては、補償を含めて当社は責任を負いかねます。

## 本機の概要

- プロ機器で実績のある高品質部品を使用し、TASCAM独自のHDDA (High Definition Discrete Architecture) マイクプリアンプ搭載による高音質のマイクプリ回路を搭載
- 最大96kHz / 24bitまで対応
- 1Uラックマウントサイズに、6in (4系統のXLRタイプのMIC入力、2系統のTRSタイプのギター／ライン入力)、2outのUSB2.0オーディオインターフェイス機能を搭載
- 4系統のファントム電源対応XLRバランスマイク入力、2系統のTRSバランスライン入力を装備
- オーディオ出力にはTRSバランスタイプのライン出力、ヘッドホン出力を装備
- オーディオ入力とパソコンからの入力をミキシングして出力可能な専用オンボードデジタルミキサー搭載
- 入力に使用可能なダイナミクスエフェクトやセンドバスを使用したセンドエフェクトのDSP処理による専用エフェクターを搭載し、パソコン上から操作可能（サンプリング周波数での制限があります）
- DAWなどを使用時のマルチトラック録音に対応したマルチトラックモードを搭載
- インターネット生放送用途などで使用するステレオミキサー機能に対応したステレオミックスモードを搭載
- ダイレクトモニター機能により遅延が少ない入力モニターが可能
- 専用ドライバーおよびアプリケーションは、Windows PCおよびMacに対応
- SONAR LEバンドル
- Ableton Live Liteバンドル

## パソコン操作に関して

本書の説明に出てくるパソコンの基本操作について不明な点がある場合は、お使いのパソコンの取扱説明書をご参照ください。

本機を使用するには、パソコンに専用ドライバーをインストールする必要があります。ドライバーのインストールについては、9ページ「ドライバーをインストールする」をご参照ください。

## 本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管してください。付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

● 本体	x1
● ACアダプター (GPE248-120200-Z)	x1
● USBケーブル	x1
● ラックマウントビスキット	x1
● SONAR LE (Windows用) インストールガイド	x1
● Ableton Live Lite インストールガイド	x1
● 保証書	x1
● クイックスタートガイド	x1

### 注意

本機には必ず、付属の専用ACアダプター (GPE248-120200-Z) をご使用ください。また、付属のACアダプターを他の機器に使用しないでください。故障、火災、感電の原因となります。

## 本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機のボタン／端子などを「**PHONES**つまみ」のように太字で表記します。
- パソコンのディスプレイ上に表示される文字を《**OK**》のように《 》で括って表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

### ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

### メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

### 注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

### 商標および著作権に関して

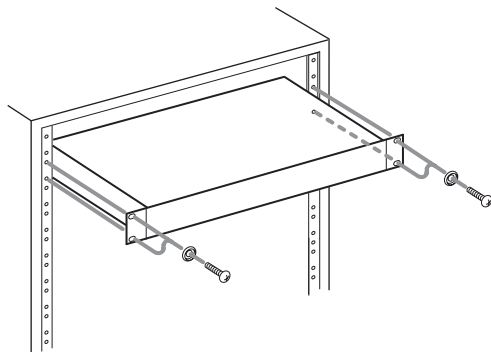
- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- Windows 8、Windows 7、Windows XP および Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Apple、Macintosh、Mac OS、Mac OS X、および iTunes は、Apple Inc. の商標です。
- Cakewalk は登録商標または商標です。Cakewalk ロゴと SONAR LE は Cakewalk, Inc. の商標です。
- Ableton および Ableton ロゴは、Ableton AGの商標です。

## Ableton Live Lite

- ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標およびソフトウェアです。VST は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

### 設置上の注意

- 本機の動作保証温度は、摂氏5度～35度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質悪化の原因、または故障の原因となります。
  - 振動の多い場所
  - 窓際などの直射日光が当たる場所
  - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
  - 極端に温度が低い場所
  - 湿気の多い場所や風通しが悪い場所
  - ほこりの多い場所
- 本機は、水平に設置してください。
- 放熱をよくするために、本機の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機をラックにマウントする場合は、付属のラックマウントビスキットを使って、下図のように取り付けてください。なお、ラック内部では、本機の上に1U以上のスペースを空けてください。



### 結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置してから電源を入れてお使いください。

### 製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。化学雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

### ユーザー登録について

TASCAMのウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願い致します。

<http://tascam.jp/support/registration/>

### アフターサービス

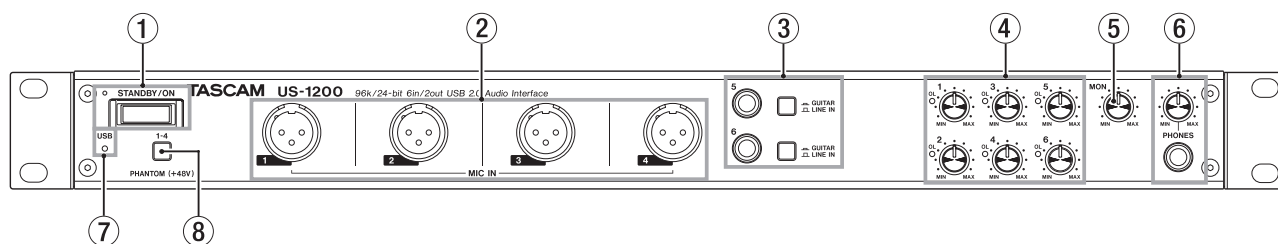
- この製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、所定事項を記入してお渡ししていますので、大切に保管してください。万が一販売店の捺印やご購入日の記載がない場合は、無償修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店・ご購入日が確認できる物を一緒に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、記載内容によりティアック修理センター（最終ページに記載）が修理致します。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（最終ページに記載）にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（最終ページに記載）までご連絡ください。修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。

なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。本機を使ったシステム内のハードディスク、光ディスクなどの記憶内容を消失した場合の修復に関しては、補償を含めて当社は責任を負いかねます。

  - 型名、型番（US-1200）
  - 製造番号（Serial No.）
  - 故障の症状（できるだけ詳しく）
  - お買い上げ年月日
  - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、最終ページをご参照ください。
- 当社は、この製品の補修用性能部分（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。
- 本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様のご負担になります。



## フロントパネル



- ① **STANDBY/ONスイッチ／インジケーター**  
電源をオン／スタンバイ状態の切り換えを行います。オンのときにインジケーターが点灯します。
- ② **MIC IN [BALANCED] 端子 (1-4)**  
XLRバランスタイプのアナログマイク入力端子です。  
(1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)
- ③ **GUITAR [UNBALANCED]／LINE IN [BALANCED] 端子 (5-6)、スイッチ**  
この端子 (5-6) は、TRS標準ジャックタイプのアナログライン入力端子です。  
スイッチが「**GUITAR**」のときはアンバランスのギター用入力端子、「**LINE IN**」のときはバランス入力端子として機能します。(Tip : HOT、Ring : COLD、Sleeve : GND)
- ④ **ゲインつまみ／OLインジケーター (1-6)**  
ゲインつまみを使って入力 (1-6) のゲインを個別に調節します。  
**OL** (オーバーロード) インジケーターは、入力が歪む直前 (−2dBFSを超えた場合) で点灯します。
- ⑤ **MONつまみ**  
リアパネルの**OUTPUT (BALANCED) L／R**端子の出力レベルを調節します。
- ⑥ **PHONES端子／つまみ**  
ステレオヘッドホン接続するためのステレオ標準ジャック (Φ6.3mm) です。ステレオミニプラグ (Φ3.5mm) のヘッドホン接続する場合は、変換アダプターをご使用ください。  
**PHONES**端子からは、**OUTPUT (BALANCED) L／R**端子と同じ信号が出力されます。  
**PHONES**つまみでヘッドホン出力レベルを調節します。

### 注意

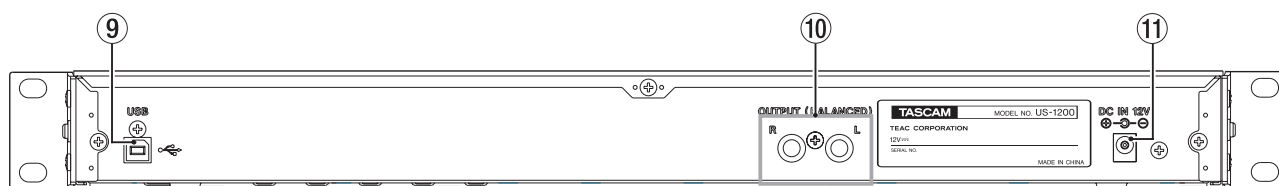
ヘッドホン接続する前には、**PHONES**つまみで音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

- ⑦ **USBインジケーター**  
USB接続が有効なときに点灯します。
- ⑧ **PHANTOM (+48V) スイッチ**  
**MIC IN**端子 (1-4) に+48Vのファントム電源を供給するためのスイッチです。  
スイッチを押したときにオンになります。4入力チャンネルを同時に切り換えます。

### 注意

- このスイッチは、4つの入力チャンネルを同時に切り換えます。ファントム電源を必要としないマイクを接続している場合は、ファントム電源をオンに設定しないでください。
- ダイナミックマイクなどファントム電源を必要としないマイクを接続しているときにこのスイッチをオンにすると、機器が故障する恐れがあります。
- このスイッチをオンにした状態で、マイクの抜き差しをしないでください。大きなノイズを発生し、機器が故障する恐れがあります。
- このスイッチのオン／オフ切り換えは、**MON**つまみと**PHONES**つまみと《**MIXER**》タブ画面のマスターフェーダーを下げた状態で行ってください。マイクによっては大きなノイズを発生し、モニター機器から突然大きな音が出て、機器の破損や聴力障害の原因になる可能性があります。
- リボンマイクの中には、ファントム電源を供給すると故障の原因になるものがあります。疑わしい場合は、リボンマイクにファントム電源を供給しないでください。

### リアパネル



#### ⑨ USB端子

付属のUSBケーブルを使ってパソコンと接続します。  
(USB2.0のみに対応)

#### 注意

- USB1.1には、対応していません。
- USB3.0に接続時は、USB2.0と同等なHigh Speedモード（最大480Mbps）で動作します。
- パソコンのサスペンドモード（スリープモード）には対応していませんので、サスペンドモードからの復帰後は正常に動作しない場合があります。その場合、本機の電源を入れ直すか、USBケーブルを接続し直してください。

#### ⑩ OUTPUT (BALANCED) L / R端子

TRS標準ジャックタイプのアナログモニター出力端子（バランス）です。

ミキサーパネルの《INTERFACE》タブ画面にある《LINE OUTPUTS》項目で設定した信号が出力されます。

フロントパネルのMONつまみを使って、出力レベルを調節することができます。

モニタースピーカーなどを接続します。（Tip：HOT、Ring：COLD、Sleeve：GND）

#### ⑪ DC IN 12V端子

付属の専用ACアダプター（GPE248-120200-Z）を接続します。



## 必要なシステム

最新の対応OS状況については、TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) にて、ご確認ください。

### Windows

#### 対応OS：

Windows 8 (8.1を含む) 32ビット  
Windows 8 (8.1を含む) 64ビット  
Windows 7 32ビット SP1以上  
Windows 7 64ビット SP1以上  
Windows XP 32ビット SP3以上  
(Windows VistaおよびWindows XP 64ビットはサポート外)

#### 対応パソコン：

USB 2.0ポートを装備したWindows対応パソコン

#### CPU / クロック：

デュアルコアプロセッサ 2GHz以上 (x86)

#### メモリー：

2GB以上

#### 注意

本機の動作確認は、上記のシステム条件を満たす標準的なパソコンを使って行われていますが、上記条件を満たすパソコン全ての場合の動作を保証するものではありません。同一条件下であっても、パソコン固有の設計仕様や使用環境の違いにより処理能力が異なります。

### Mac OS X

#### 対応OS：

OS X Mavericks (10.9.1以降)  
OS X Mountain Lion (10.8.4以降)  
OS X Lion (10.7.5以降)  
Mac OS X Snow Leopard (10.6.8以降)

#### 対応パソコン：

USB2.0を装備したApple Macintoshシリーズ

#### CPU / クロック：

デュアルコアプロセッサ 2GHz以上

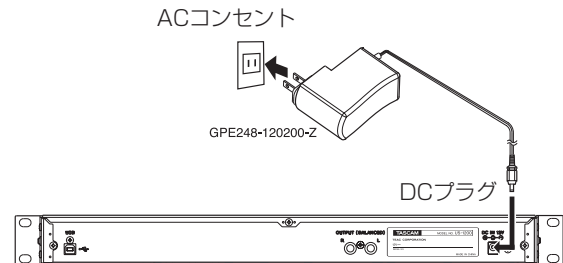
#### メモリー：

2GB以上

## 電源の接続

あらかじめ本機の**STANDBY/ON**スイッチがスタンバイ状態になっていることを確認します。

付属の専用ACアダプター (GPE248-120200-Z) を使って、以下のように本機の電源を接続します。



#### 注意

必ず同梱されている専用ACアダプター (GPE248-120200-Z) をお使いください。他のACアダプターを使用すると故障、発熱、発火などの原因になります。

## ドライバーをインストールする

本機を使用するには、パソコンにドライバーをインストールする必要があります。

ドライバーは、随時更新されています。最新のドライバーは、TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp>) から、ご使用のOSに対応したドライバーをダウンロードしてください。

#### 注意

- デジタルオーディオの処理はパソコンにかなりの負担をかけますので、他のアプリケーション (特にグラフィックやインターネットツール) を動作させることで処理が追いつかなくなる可能性があります。オーディオアプリケーションを使用しているときには、他のアプリケーションを立ち上げないようにしてください。
- インストール終了後またはアンインストール終了後にパソコンの再起動が必要になることがあります。必要に応じてデータのセーブなどを行った上で他のアプリケーションを終了させてください。

## Windows用ドライバーのインストール

#### メモ

- パソコンにUSBケーブルで接続する前にドライバーをインストールしてください。  
すでにUSBケーブルを接続して《新しいハードウェアの検出ウィザード》が起動してしまっている場合には、ウィザードをキャンセルして終了した上で、USBケーブルを抜いてください。
- ドライバーのインストール中に、《Windowsロゴテストに合格していません...》という警告メッセージが表示されることがあります。この警告メッセージが表示されたときは、《続行》をクリックしてインストールを続けてください。

## 第3章 インストール

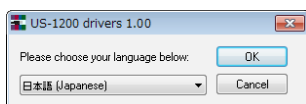
### ドライバーのインストール手順

1. TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp>) から、ご使用のOSに適した最新のドライバーをダウンロードし、ご使用のパソコンに保存してください。
2. 保存したドライバー（zipファイル）をデスクトップなどに解凍してください。
3. 解凍して生成されるフォルダー内にある《setup.cmd》をダブルクリックして、インストールを開始します。

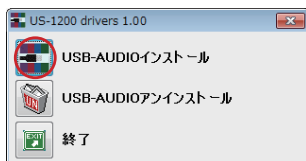
#### 注意

zipファイルを解凍せずに、ダブルクリックして開かれたフォルダーで《setup.cmd》をダブルクリックした場合にはインストーラーは起動できません。zipファイルを右クリックして表示されるメニューから《すべて展開...》を選択するなどして解凍してから再度実行してください。

4. しばらくすると言語選択の画面が表示されますので、上下カーソルキーを使用して希望の言語を選択し《OK》ボタンをクリックします（以降は日本語を選択した場合の画面およびボタン名による説明になります）。



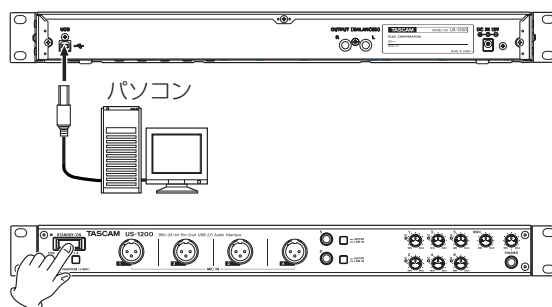
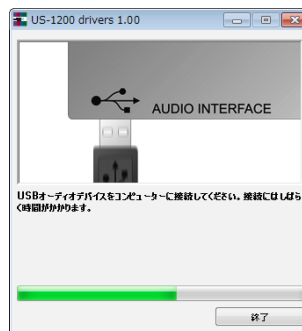
5. 次の画面が表示されたら、《USB-AUDIO インストール》ボタンをクリックします。



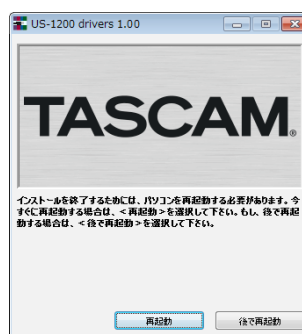
6. 使用ライセンス許諾契約書の内容を確認し、《使用許諾契約の条項に同意します》を選択します。  
次に《インストール》ボタンをクリックすると、インストールが開始されます。



7. 次の画面が表示されたら、付属のUSBケーブルを使って本機とパソコンを接続し、本機のSTANDBY/ONボタンを押して電源を入れます。



8. 次の画面が表示されたら、インストール作業は完了です。  
《再起動》ボタンをクリックします。  
インストーラーが終了し、パソコンを再起動します。



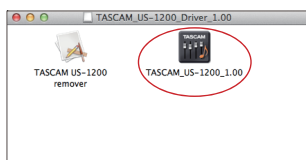
## Mac OS X用ドライバーのインストール

### メモ

- パソコンにUSBケーブルで接続する前にドライバーをインストールしてください。ドライバーをインストールする前にUSBケーブルを接続した場合には、ドライバーのインストールをキャンセルした上で、USBケーブルを抜いてください。
- ドライバーのインストール中に、『“TASCAM US-1200 X.XX”は、Mac App Storeからダウンロードされたものでないため開けません。』などの警告メッセージが表示されることがあります。これらの警告メッセージが表示されたときは、11ページ「Gatekeeperについて」の対処方法を行った上で、インストールを続けてください。

### ドライバーのインストール手順

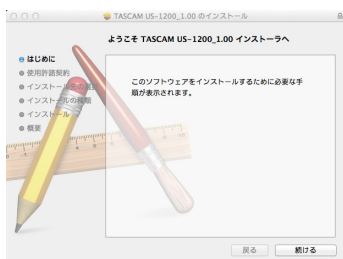
1. TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp>) から、ご使用のOSに適した最新のドライバーをダウンロードし、ご使用のパソコンに保存してください。
2. 保存したドライバーのディスクイメージファイル《TASCAM\_US-1200\_driver\_X.XX.dmg》ファイルをダブルクリックし、開いたフォルダー内の《TASCAM US-1200 X.XX》をダブルクリックします。



### メモ

ご使用の環境により、ダウンロードしたzipファイルが解凍されていない場合があります。その場合は、zipファイルを解凍してからディスクイメージファイルをダブルクリックしてください。

3. インストーラーが起動しますので、その後は画面の指示にしたがってインストールを進めます。



4. 次の画面が表示されたら、インストール作業は完了です。《再起動》ボタンをクリックします。インストーラーが終了し、パソコンを再起動させます。



### Gatekeeperについて

Gatekeeperの設定により、インストール中に警告メッセージが表示されることがあります。

表示された警告メッセージにより、対処方法が異なります。詳しくは、以下の対処方法をご参照ください。

- Gatekeeperの設定を《Mac App Storeからのアプリケーションのみを許可》にしている場合

『“TASCAM US-1200 X.XX”は、Mac App Storeからダウンロードされたものでないため開けません。』というセキュリティーの警告画面が表示されることがあります。



その場合には《OK》ボタンをクリックして警告画面を閉じた後、ファイル上でcontrolキーを押しながらクリックする、またはファイル上で右クリックし、メニューから《開く》をクリックしてください。

『“TASCAM US-1200 X.XX”は、Mac App Storeからダウンロードされたものではありません。開いてもよろしいですか?』という警告画面が表示されますので、《開く》ボタンをクリックしてください。



このとき、次のGatekeeperの設定を《Mac App Storeからのアプリケーションのみを許可》以外にしている場合と同じ警告画面が表示されることがあります。

『“TASCAM US-1200 X.XX”は、Mac App Storeからダウンロードされたものでないため開けません。』というメッセージが再度表示され、開けないことがあります。



このときは、ファイルのあるフォルダーから、デスクトップなど他のフォルダーにファイルをコピーしてから実行するか、Gatekeeperの設定を《Mac App Storeと確認済みの開発元からのアプリケーションを許可》に変更してから再度実行してください。

## 第3章 インストール

- Gatekeeperの設定を《Mac App Storeからのアプリケーションのみを許可》以外にしている場合

《“TASCAM US-1200 X.XX”は、アプリケーションで、インターネットからダウンロードされました。開いてもよろしいですか?》というセキュリティの警告画面が表示されることがありますが、その場合には《開く》ボタンをクリックしてください。



- Gatekeeperの設定を変えるには

Gatekeeperの設定は、システム環境設定の《セキュリティとプライバシー》から《一般》タブの《ダウンロードしたアプリケーションの実行許可:》項目で変更できます。

変更するには左下の《🔒》アイコンをクリックし、パスワードを入力してロックを解除する必要があります。



《🔒》ボタンもしくはcommand+Qなどでシステム環境設定を終了する、または《すべてを表示》をクリックしてこの画面から移動すると、再度ロックされます。

### 注意

Gatekeeperの設定を変えることで、セキュリティにリスクが生じる場合があります。

Gatekeeperの設定を変更してセキュリティを下げた（下にある項目に変更した）ときは、本ドライバーやファームウェアアップデートの終了後（ドライバーをインストール直後にファームウェアアップデートを行う場合はファームウェアアップデート後）に設定を元に戻してください。

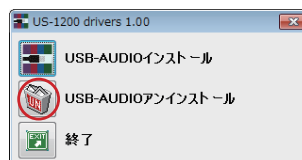
## ドライバーのアンインストール

### Windows

ドライバーをアンインストールするには、以下の2通りの方法があります。

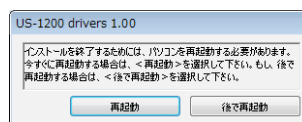
- インストール時に使った《setup.cmd》からアンインストールする方法

1. 9ページ「Windows用ドライバーのインストール」の手順2. ～4.の操作をします。
2. 手順5.で《USB-AUDIO アンインストール》ボタンをクリックします。



3. 次の画面が表示されたら、アンインストール（Remove）作業は完了です。

《再起動》ボタンをクリックします。アンインストーラー（Remover）が終了し、パソコンを再起動させます。



- Windowsの《プログラムと機能》からアンインストールする

1. 《スタート》→《コントロールパネル》と選択して《プログラムと機能》を開きます。

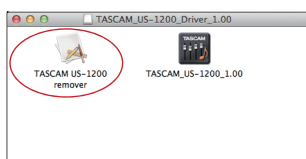
### メモ

Windows 8では、スタート画面上で右クリックして表示されたアプリバーで、《すべてのアプリ》ボタン（Windows 8.1ではスタート画面左下の↓ボタン）をクリックして表示されるアプリ画面で《コントロールパネル》をクリックします。

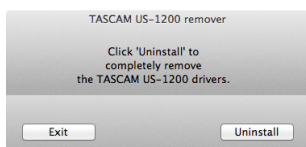
2. 《表示方法:》項目が《カテゴリー》（Windows XP は《カテゴリー表示》）の場合は、《プログラム》項目の中の《プログラムのアンインストール》をクリックします。  
《表示方法:》項目が《大きいアイコン (L)》または《小さいアイコン (S)》（Windows XP は《クラシック表示》）の場合は、《プログラムと機能》を実行します。
3. 一覧の中から《US-1200 drivers》を選択し、ダブルクリックします。
4. 以降は、スクリーンの指示にしたがってください。

## Mac OS X

1. インストール時に使用したディスクイメージファイル《TASCAM\_US-1200\_driver\_X.XX.dmg》をダブルクリックし、開いたフォルダー内の《TASCAM US-1200 remover》をダブルクリックします。

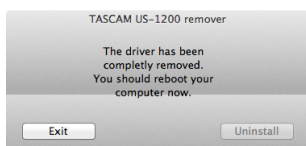


2. 《Uninstall》ボタンをクリックします。



以降は、スクリーンの指示にしたがってください。

3. 次の画面が表示されたら、アンインストール（Remove）作業は完了です。  
《Exit》ボタンをクリックすると、アンインストーラー（Remover）が終了します。



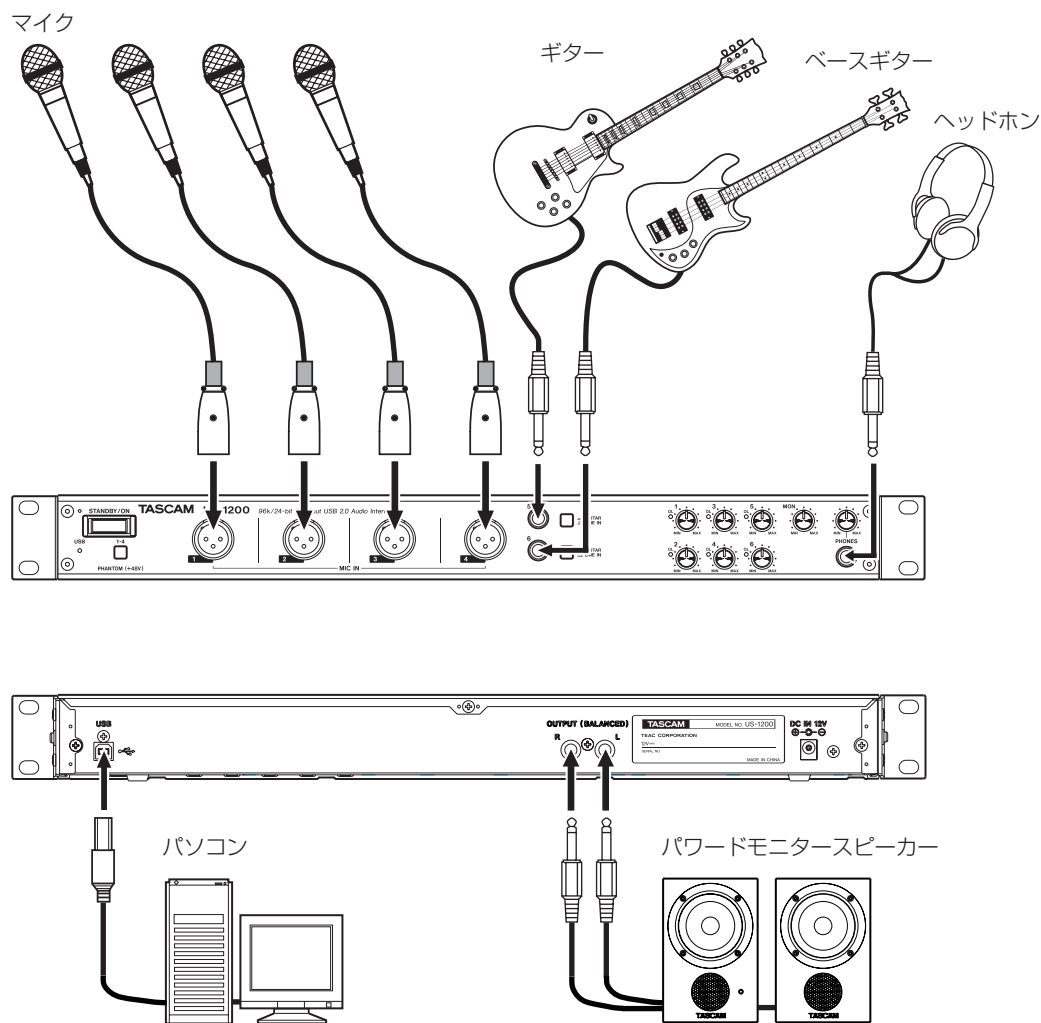
4. パソコンを再起動させてください。

## 第4章 接続

以下に、US-1200の接続例を示します。

### 接続前の注意

- 接続を行う前に、外部機器の取扱説明書をよくお読みになり、正しく接続してください。
- 本機および接続する機器の電源を全てオフまたはスタンバイ状態にします。
- 各機器の電源は、同一のラインから供給するように設置します。テーブルタップなどを使う場合は、電源電圧の変動が少なくなるように、電流容量が大きい太いケーブルをご使用ください。



[US-1200を使った接続例]



## USBの接続

付属のUSBケーブルを使って、図のように本機とパソコンを接続してください。USBの接続が有効になると、フロントパネルのUSBインジケータが点灯します。

### 注意

USB機器の中には、USBバスを頻繁に使用するものがあります。オーディオ信号のドロップアウト、クリックノイズなどを避けるために本機が接続されているUSBバス上には、他のUSB機器を接続しないことを強くお勧めします。ただし、USBキーボードとUSBマウスは接続しても問題ありません。

## オーディオの接続

マイク、ギター、キーボード、オーディオ機器など、本機に入力されたアナログ音声信号は、デジタル信号に変換された後にUSBを経由してパソコンに送られます。また、スピーカー（アンプ経由）やヘッドホンを通機に接続することにより、本機に入力されるオーディオ信号やパソコンからの出力信号をモニターすることが出来ます。

### 注意

オーディオ機器を接続する場合には、ゲインつまみ、MONつまみ、およびPHONESつまみを下げた状態で行ってください。モニター機器から突然大きな音が出て、機器の破損や聴力障害の原因になる可能性があります。


## マイク

マイクは、フロントパネルのMIC IN (1-4) 端子に接続します。ファントム電源を必要とするコンデンサマイクをご使用になる場合は、MIC IN (1-4) 端子に接続し、PHANTOM (+48V) スイッチでオンに設定してください。


### 注意

- PHANTOM (+48V) スイッチは、4入力チャンネルを同時に切り換えます。ファントム電源を必要としないマイクを接続している場合は、ファントム電源をオンに設定しないでください。
- ダイナミックマイクなどファントム電源を必要としないマイクを接続しているときにファントム電源をオンにすると、機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源をオンにした状態でマイクの抜き差しをしないでください。大きなノイズを発生し、機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源のオン／オフ切り換えは、MONつまみとPHONESつまみと《MIXER》タブ画面のマスターフェーダーを下げた状態で行ってください。マイクによっては大きなノイズを発生し、モニター機器から突然大きな音が出て、機器の破損や聴力障害の原因になる可能性があります。
- リボンマイクの中には、ファントム電源を供給すると故障の原因になるものがあります。疑わしい場合は、リボンマイクにファントム電源を供給しないでください。

## ギター

ギターやベースギターを直接本機に接続する場合は、フロントパネルのGUITAR / LINE IN (5-6) 端子に接続し、その端子のGUITAR / LINE INスイッチを「 GUITAR」に設定します。

## 電子楽器／オーディオ機器など

電子楽器やオーディオ機器などを接続する場合は、フロントパネルのGUITAR / LINE IN (5-6) 端子に接続し、その端子のGUITAR / LINE INスイッチを「 LINE IN」に設定します。

## アナログレコードプレーヤー

アナログレコードプレーヤーの出力は、直接本機に接続することができません。アナログレコードプレーヤーを本機に接続するには、アナログレコードプレーヤーと本機の間にフォノイコライザーアンプが必要です（あるいはフォノ入力端子を持つオーディオアンプの出力端子と接続します）。

## モニタースピーカー

モニタースピーカー（パワードモニタースピーカーまたはアンプ／スピーカーシステム）は、リアパネルのOUTPUT (BALANCED) L / R端子に接続します。

## ヘッドホン

ヘッドホンは、フロントパネルのPHONES端子（ステレオ標準ジャック）に接続します。

## 第5章 ミキサーパネルの設定

ミキサーパネルを使って、本機の各種機能の設定変更や保存を行うことができます。

### ミキサーパネルを開く

ミキサーパネルを開くには、次の方法があります。

Windows :

- 通知領域にある《TASCAM US-1200 Mixer panel》をクリックして、ミキサーパネルを開く。
- プログラム／アプリの中からミキサーパネルを選ぶ

Windows XP、Windows 7

スタートボタン→《すべてのプログラム》→《TASCAM》から《TASCAM US-1200 Mixer Panel》を選択して、ミキサーパネルを開く。

Windows 8

スタート画面上で右クリックして表示されたアプリバーで《すべてのアプリ》ボタンをクリック（Windows 8.1ではスタート画面左下の↓ボタンをクリック）して表示されるアプリ画面での《TASCAM》の下に《TASCAM US-1200 Mixer Panel》を選択して、ミキサーパネルを開く。

- Windows 8では、スタート画面で《TASCAM US-1200 Mixer Panel》を選択して、ミキサーパネルを開く。

#### メモ

Windows 8.1では、スタート画面に自動登録されません。

- コントロールパネルからミキサーパネルを開く

Windows XP

1. 《スタート》ボタン→《コントロールパネル》と選択し、コントロールパネルを表示する。
2. コントロールパネルがカテゴリ表示になっているときは、《クラシック表示に切り替える》をクリックし、クラシック表示にする。
3. 《TASCAM US-1200》を選択して、ミキサーパネルを開く。

Windows 7

1. スタートボタン→《コントロールパネル》と選択し、コントロールパネルを表示させる。
2. コントロールパネルがカテゴリ表示になっているときは、《表示方法：》項目を《大きいアイコン（L）》または《小さいアイコン（S）》にする。
3. 《TASCAM US-1200》を選択して、ミキサーパネルを開く。

Windows 8

1. スタート画面上で右クリックして表示されたアプリバーで《すべてのアプリ》ボタンをクリック（Windows 8.1ではスタート画面左下の↓ボタンをクリック）して表示されるアプリ画面で《コントロールパネル》を選択し、コントロールパネルを表示させる。
2. コントロールパネルがカテゴリ表示になっているときは、《表示方法：》項目を《大きいアイコン（L）》または《小さいアイコン（S）》にする。
3. 《TASCAM US-1200》を選択して、ミキサーパネルを開く。

#### メモ

Windows 8では、デスクトップ画面の左下隅で右クリックして表示されるメニューから《コントロールパネル》を選択するなど、コントロールパネルを開く方法が他にもあります。

Mac OS X :

- 《Finder》→《アプリケーション》→《TASCAM US-1200 Mixer Panel》をクリックして、ミキサーパネルを開く。
- 《オーディオMIDI設定》の《オーディオ装置》ウィンドウで《US-1200》を選択した状態でcontrolキーを押しながらクリック（右クリック）、または設定ボタンをクリックして表示されるメニューの中から《装置を設定...》をクリックして、ミキサーパネルを開く。

### ミキサーパネルについて

ミキサーパネルには、3つのタブ画面があります。

ミキサーパネル上部の各タブをクリックすると、選択された画面の表示になります。

- INTERFACE** : ドライバーの現在のステータス（状態）／接続情報を表示すると同時に、各種設定を行います。
- MIXER** : 内蔵ミキサーの設定を行います。
- EFFECTS** : 内蔵エフェクターの設定を行います。

### 《INTERFACE》タブ画面



[Windows版《INTERFACE》タブ画面]



[Mac版《INTERFACE》タブ画面]

《INTERFACE》タブ画面は、ステータス（状態）表示部と設定項目表示部の2つの表示部に分かれて表示しています。

## ステータス（状態）表示部

ドライバーおよび現在のステータス（状態）を表示しています。

表示項目	表示内容
《Driver Version》	ドライバーのバージョン
《Device》	本機の装置名
《Connection Type》	パソコンとの接続形態
《Firmware Version》	本機のファームウェアバージョン
《Sample Width》	現在の量子化ビット数
《Sample Rate》	現在のサンプリング周波数

## 設定項目表示部

ドライバーの各設定項目を設定します。

### ① Audio Performance項目（Windowsのみ）

本機のドライバーは、パソコンとやりとりするオーディオ入出力信号を一時的にバッファーに蓄えています。  
ユーザー環境に合わせて、バッファーサイズを調節することができます。

選択肢：

- 《Highest latency》：バッファーサイズ最大
- 《High latency》：バッファーサイズ大
- 《Normal latency》（初期値）：バッファーサイズ中
- 《Low latency》：バッファーサイズ小
- 《Lowest latency》：バッファーサイズ最小

### メモ

- バッファーサイズを小さくするとオーディオ信号の遅れが小さくなりますが、パソコンの高速処理が要求されます。他のシステム操作を行った場合などに処理が間に合わないと、オーディオ信号にクリックノイズ、ポップノイズ、ドロップアウトなどが発生する場合があります。
- バッファーサイズを大きくすると動作が安定し、システム操作のオーディオ信号への悪影響に対して強くなりますが、パソコンとやりとりするオーディオ信号の遅れが大きくなります。
- Mac OS Xでは、バッファーサイズを使用する各オーディオアプリケーションにて設定を行います。詳しくは、お使いになるオーディオアプリケーションの取扱説明書などをご参照ください。

### ② LINE OUTPUT 1-2項目（出力セレクトター）

本機から出力される信号は、2チャンネルです。  
本機のOUTPUT（BALANCED）L／R端子およびPHONES端子から出力する信号を選択します。

選択肢：

- 《mixer output L-R》（初期値）：  
各入力端子からの入力信号とUSB経由でパソコンから送られてくる再生信号をミキサーでミックスした信号を出力します。
- 《computer 1-2》：  
USB経由でパソコンから送られてくる再生信号のみを出力します。

### ③ Mixer Mode項目

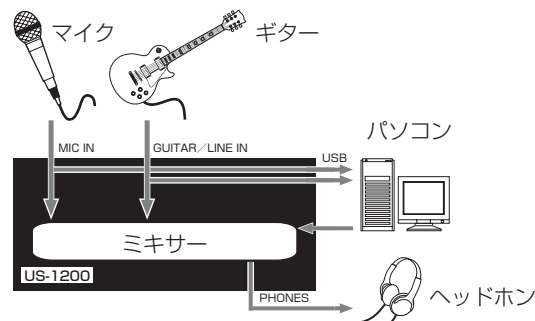
用途に応じて、ミキサーのモードを切り換えることができます。

選択肢

- 《Multitrack》（初期値）：  
DAW（例：SONAR）などを使用し、マルチトラック録音をする場合に設定します。  
各入力は、マルチトラック録音用にそれぞれ独立した信

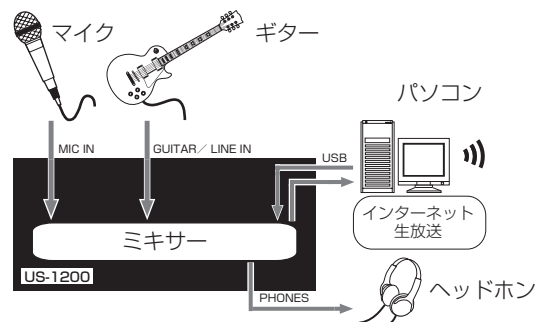
号でUSBを経由してパソコンに送られます。同時に、各入力音とパソコンからの再生音をミキサーでミックスし、さらにエフェクトをかけることにより、お好みのモニター音を作ることが可能です。

ミキサーからはステレオ出力され、ヘッドホンや出力端子に接続したスピーカーなどで聴くことができます。



### 《Stereo Mix》：

インターネットを使用した生放送や動画コンテンツの音声録音など、ステレオミックスした音を放送／録音する場合や、DSPミキサーの機能を使ってミックスしたステレオトラックを録音する場合に設定します。  
各入力端子からの入力信号とUSB経由でパソコンから送られてくる再生信号をミックスし、各出力端子およびパソコンへ送ります。  
ミキサーからはステレオ出力され、ヘッドホンや出力端子に接続したスピーカーなどで聴くことができます。



《Multitrack》モードおよび《Stereo Mix》モードの音の流れ（オーディオフロー）の詳細については、33ページ「オーディオフローダイアグラム」をご参照ください。

### メモ

《Stereo Mix》モードで使用する際には、次のことにご注意ください。

インターネットの生放送などを行う際、音がループしてエコーのような反響音を出してしまうことがあるため、使用するアプリケーション画面内の音量設定は [0]（ゼロ）に設定してください。



音量 [0]

### 《MIXER》タブ画面



《MIXER》タブ画面は、内蔵ミキサーの設定を行います。  
この画面は、《INTERFACE》タブ画面の《Mixer Mode》項目の設定により、表示内容が異なります。

#### メモ

《MIXER》タブ画面の設定は、《SOLO》ボタン以外の設定について、電源オフ後（再起動時）も設定が保持されます。《SOLO》ボタンの設定は、電源オフ後（再起動時）には初期値になります。

#### ① ダイナミクスエフェクト選択ボタン

使用するダイナミクスエフェクトのエフェクト名部分をクリックして、エフェクトを選択します。  
2種類以上のダイナミクスエフェクトを同時に使用することはできません。

選択肢：

オフ（初期値）	：エフェクト名消灯
COMPRESSOR	：エフェクト名点灯
NOISE SUPPRESSOR	：エフェクト名点灯
DE-ESSER	：エフェクト名点灯
EXCITER	：エフェクト名点灯
EQ	：エフェクト名点灯

使用するダイナミクスエフェクトを変更するには、使用しているエフェクト以外のエフェクトのボタンをクリックします。使用していたエフェクトが自動的にオフになり、新しく選択されたエフェクトがオンになります。

#### メモ

- サンプリング周波数の条件により使用できない場合は、選択することができません。
- このボタンによるダイナミクスエフェクトのオン／オフと、《EFFECT》タブ画面のダイナミクスエフェクトのオン／オフの状態は連動します。

#### ② ダイナミクスエフェクトのアサインボタン

ダイナミクスエフェクトをアサインする各チャンネルのボタン、または《MASTER L-R》ボタンをクリックして、エフェクトをアサインします。  
複数のチャンネルを同時にアサインすることはできません。

選択肢：

オフ（初期値）	：チャンネル名ボタン消灯
オン	：アサイン先のチャンネル名ボタン点灯

すでにダイナミクスエフェクトがアサインされたチャンネルとは別のチャンネルにアサインする場合は、アサインしたいチャンネル名のボタンを押します。今までアサインされていたチャンネル名のボタンが消灯し、新しくアサインされたチャンネル名のボタンが点灯し、アサインが切り換わります。

#### ③ エフェクトセンド選択ボタン

センドバスに送る信号の取り出し位置を選択します。  
クリックする度に、《POST》→オフ→《PRE》→《POST》→…の順に切り換わります。

選択肢：

《PRE》	：チャンネルフェーダーの手前の信号をセンドバスに送ります。センドレベルがチャンネルフェーダーの影響を受けなくなります。
《POST》（初期値）	：チャンネルフェーダーの後の信号をセンドバスに送ります。センドレベルがチャンネルフェーダーの影響を受けます。
オフ	：センドバスに信号は送られません。このとき枠全体が消灯します。

#### ④ センドつまみ

センドバスに送る信号のレベル（センドレベル）を調節します。

調節範囲：0～127（初期値：127）

センドつまみをマウスでクリックしたまま上下に動かし（ドラッグ）て、センドレベルを調節します。  
マウスをドラッグしている間は、調節した値がセンドつまみの下側に表示されます。

#### ⑤ SOLOボタン

《SOLO》ボタンをクリックすると、《SOLO》ボタンが点灯したチャンネルがソロになります。このとき、ソロを選択していないチャンネルは自動的にミュートされて、《MUTE》ボタンが点灯します。（初期値：オフ）  
また、複数のチャンネルを同時にソロにすることも可能です。

#### メモ

- 全ての《SOLO》ボタンがオフの状態、あるチャンネルの《SOLO》ボタンをクリックするとソロモードへ入り、他の全てのチャンネルが自動的にミュートされて、《MUTE》ボタンが点灯します。
- 全ての《SOLO》ボタンがオフになると、ソロモードが解除されます。このとき、ソロモードにより自動的にミュートされていたチャンネルのミュートが解除され、ソロモードに入る前のミュート状態が復帰します。
- 《MASTER L-R》チャンネルの《MUTE》ボタンは、ソロにより自動的にオンにはなりません。
- ソロの設定は、保存されません。電源オフ後（再起動時）は、全てのソロとミュートが解除されます。

#### ⑥ MUTEボタン

《MUTE》ボタンをクリックすると、《MUTE》ボタンが点灯したチャンネルがミュート（消音）されます。（初期値：オフ）

#### メモ

ミュートは、《MUTE》ボタンでのオン／オフ時以外に、《SOLO》ボタンを使用したときにも自動的に切り換わります。



## ⑦ パンスライダー

各チャンネルの入力信号のステレオ定位を調節します。  
パンスライダーのノブをマウスでクリックしたまま左右に動かし（ドラッグ）て、ステレオ定位を調節します。  
マウスをドラッグしている間は、調節した位置がフェーダーレベル表示部（⑩）に表示されます。  
左端のときは《L15》、右端のときは《R15》になります。  
中央では《C》を表示します。

設定範囲：《L15》-《L1》、《C》、《R1》-《R15》（初期値：《C》）

パンスライダーのノブの色は、中央《C》のとき青色、それ以外は黄色になります。

### メモ

- パンスライダーのノブが中央のとき、3dB下げられた信号が奇数チャンネルはLバスに、偶数チャンネルはRバスに送られます。
- 《LINK》ボタンがオンのとき、パンスライダーはLチャンネル（奇数チャンネル）とRチャンネル（偶数チャンネル）の音量バランス調節になります。
- パソコンのキーボードで以下のキーを押しながらパンスライダーのノブをクリックすると、ノブが《C》の位置に戻ります。

Windows PC	: ctrlキー
Mac	: commandキー

## ⑧ チャンネルフェーダー

各チャンネルのミックスレベルを調節します。  
チャンネルフェーダーのフェーダーノブをマウスでクリックしたまま上下に動かし（ドラッグ）て、チャンネルレベルを調節します。  
調節した値が、フェーダーレベル表示部（⑩）に表示されます。

### メモ

パソコンのキーボードで以下のキーを押しながらチャンネルフェーダーのフェーダーノブをクリックすると、フェーダーノブが《0》dBの位置に戻ります。

Windows PC	: ctrlキー
Mac	: commandキー

## ⑨ チャンネルレベルメーター

入力信号のレベルをチャンネルレベルメーターに表示します。  
レベルメーターの最上部は、オーバーロードインジケーターです。  
《Multitrack》モードではエフェクトがかかる前のレベル、《Stereo Mix》モードではエフェクトがかかった後のレベルを表示します。

### メモ

各チャンネルのメーターはプリフェーダー（フェーダーに入る前）です。フェーダーで調節する、またはミュートをかけてもレベルメーターには反映されません。

## ⑩ フェーダーレベル表示部／パン位置表示部

この表示部の上にあるチャンネルフェーダーのレベルをデシベル単位の数値で表示します。  
パンスライダーを使ってステレオ定位を調節しているときは、パンスライダーの調節位置を表示します。

## ⑪ LINKボタン

《LINK》ボタンをクリックすると、《LINK》ボタンに対して隣り合うチャンネルのミキサー機能がステレオリンクし、《LINK》ボタンが点灯します。（初期値：オフ）  
ステレオリンクがオンのとき、ステレオリンクモードの表示に変わり、各チャンネルの各ボタンおよび各つまみ類が統合されます。また、チャンネルレベルメーターがステレオ表示になります。

### メモ

- ステレオリンクをオンにした場合、各ボタンおよび各つまみ類の設定は、リンク前の奇数チャンネルの設定になります。ただし、パンスライダーは中央《C》に設定されます。
- ステレオリンクをオフにした場合、両チャンネルともリンク時の設定が保持されます。ただし、ダイナミクスエフェクトのアサインは奇数チャンネルに、パンスライダーは中央《C》に設定されます。
- ステレオリンクをオンにした場合、パンスライダーのノブが中央《C》のとき、3dB下げられた信号が奇数チャンネルはLバスに、偶数チャンネルはRバスに送られます。このため、ステレオリンクせずに奇数チャンネルのパンスライダーを《L15》にし、偶数チャンネルを《R15》にした場合より3dB小さくなります。

## ⑫ チャンネル名表示

本機の入力端子のチャンネル名、およびパソコンの出力信号のチャンネル名を表示します。

## ⑬ ステータス（状態）表示部

現在のステータス（状態）を表示します。

《Sample Rate》	: サンプリング周波数
《Sample Width》	: 量子化ビット数
《Mixer Mode》	: ミキサーモード

## ⑭ MON MIXスライダー

《INTERFACE》タブ画面の《Mixer Mode》項目が《Multitrack》に設定されている場合に、このスライダーを使って内蔵ミキサーから出力される信号のバランスを調節します。  
《Input》側にすると本機の入力信号のみ、《Computer》側にするとUSB経由で入力されたパソコンの出力信号のみを出力します。  
ノブの部分をクリックしたまま左右に動かし（ドラッグ）て調節します。  
《INTERFACE》タブ画面の《Mixer Mode》項目が《Stereo Mix》に設定されている場合は、《MON MIX》スライダーは表示されません。各入力端子からの入力信号とUSB経由で入力されたパソコンの出力信号をミックスして出力します。

### メモ

《Mixer Mode》項目が《Multitrack》に設定されている場合に、パソコンのキーボードで以下のキーを押しながら《MON MIX》スライダーのノブをクリックすると、ノブが中央に戻ります。

Windows PC	: ctrlキー
Mac	: commandキー

## 第5章 ミキサーパネルの設定

### ⑮ センドエフェクトボタン

《REVERB》ボタンをクリックして、エフェクトをかけます。(初期値：オフ)  
リバーブがオンのとき、《REVERB》が点灯します。

#### メモ

- サンプリング周波数の条件により使用できない場合は、オンにすることはできません。
- このボタンでのSENDエフェクトのオン／オフと《EFFECTS》タブ画面でのSENDエフェクトのオン／オフの状態は、連動します。

### ⑯ RETURNつまみ

SENDエフェクトからステレオバスに戻す信号のリターンレベルを調節します。

調節範囲：0～127 (初期値：64)

《RETURN》つまみをマウスでクリックしたまま上下に動かし(ドラッグ)て、リターンレベルを調節します。  
マウスをドラッグしている間は、調節した値が《RETURN》つまみの下側に表示されます。

### ⑰ SENDつまみ

SENDバスからSENDエフェクトに送る信号のSENDマスターレベルを調節します。

調節範囲：0～127 (初期値：127)

《SEND》つまみをマウスでクリックしたまま上下に動かし(ドラッグ)て、SENDレベルを調節します。  
マウスをドラッグしている間は、調節した値が《SEND》つまみの下側に表示されます。

### ⑱ マスターレベルメーター

マスターレベルをステレオレベルメーターに表示します。  
レベルメーターの最上部は、オーバーロードインジケーターです。

#### メモ

マスターレベルメーターはポストフェーダー(フェーダーを通した後)です。フェーダーで調節する、またはミュートをかけたりするとレベルメーターに反映されます。

### ⑲ マスターフェーダーレベル表示部

マスターフェーダーのレベルをデシベル単位の数値で表示します。

### ⑳ マスターフェーダー

出力信号のレベルを調節します。  
マスターフェーダーのフェーダーノブをマウスでクリックしたまま上下に動かし(ドラッグ)て、マスターレベルを調節します。  
調節した値が、マスターフェーダーレベル表示部(⑲)に表示されます。

#### メモ

パソコンのキーボードで以下のキーを押しながらマスターフェーダーのフェーダーノブをクリックすると、フェーダーノブが《0》dBの位置に戻ります。

Windows PC : ctrlキー  
Mac : commandキー

## 《EFFECTS》タブ画面



《EFFECTS》タブ画面は、内蔵エフェクターの設定を行います。

#### メモ

《EFFECTS》タブ画面の設定は、電源オフ後(再起動時)も設定が保持されます。

### ① ダイナミクスエフェクトタブ

使用するダイナミクスエフェクトのタブをクリックすると、選択されたエフェクトが前面に表示されます。

選択肢：

《COMPRESSOR》、《NOISE SUPPRESSOR》、《DE-ESSER》、《EXCITER》、《EQ》

各ダイナミクスエフェクトの詳細は、21ページ「ダイナミクスエフェクト」をご参照ください。

### ② パラメーター調節つまみ

各パラメーターのつまみをマウスでクリックしたまま上下に動かし(ドラッグ)て、調節します。

調節した各パラメーターの値は、各つまみの上側に表示されます。  
各エフェクトのパラメーターの詳細は、21ページ「ダイナミクスエフェクト」および 23ページ「SENDエフェクト」をご参照ください。

### ③ ダイナミクスエフェクトのオン／オフボタン、インジケーター

表示中のダイナミクスエフェクトタブのエフェクト名またはインジケーターをクリックすると、ダイナミクスエフェクトがオンになります。

ダイナミクスエフェクトがオンのとき、エフェクト名が点灯します。

#### メモ

- 2種類以上のダイナミクスエフェクトを同時に使用することはできません。そのため、使用している以外のダイナミクスエフェクトをオンにすると、現在使用中のダイナミクスエフェクトは自動的にオフになります。
- このダイナミクスエフェクトのオン／オフと、ミキサーパネル上のダイナミクスエフェクトのオン／オフの状態は連動します。
- サンプリング周波数の条件により使用できない場合は、オンにすることはできません。



## ④ リバーブタイプ選択スイッチ

本機の《REVERB》エフェクトには、5種類のリバーブタイプがあります。

使用するリバーブタイプ名をクリックすると、選択されたリバーブタイプ名が点灯します。

各パラメーターの詳細は、23ページ「センドエフェクト」をご参照ください。

## ⑤ センドエフェクトのオン／オフボタン、インジケーター

センドエフェクトタブのエフェクト名またはインジケーターをクリックすると、センドエフェクト（REVERB）がオンになります。

センドエフェクトがオンのとき、エフェクト名が点灯します。

### メモ

- このセンドエフェクトのオン／オフとミキサーパネル上のセンドエフェクトのオン／オフの状態は連動します。
- サンプリング周波数の条件により使用できない場合は、オンにすることはできません。

## 内蔵エフェクターの使用制限について

内蔵エフェクターは、サンプリング周波数によって使用できるエフェクトの数に制限があります。

- 44.1k/48kHzのときは、ダイナミクスエフェクトおよびセンドエフェクトの中から1種類のエフェクトだけが使用可能です（エフェクトがオンになっているときに他のエフェクトをオンにすると、それまでオンになっていたエフェクトは自動的にオフになります）。
- 88.2k/96kHzのときは、内蔵エフェクトは使用できません。

## ダイナミクスエフェクト

### COMPRESSOR（コンプレッサー）

入力音量がスレッシュホルドレベルを超えた場合に、コンプレッション（音量の変化幅を圧縮）し、音量のバラつきを抑えます。

たとえば、発音時のレベルの高い部分を潰して全体のレベルをそろえ、減衰音のレベルを持ち上げることによって伸びのある音にすることができます。

《COMPRESSOR》タブでは、コンプレッサーの入力信号レベル（《INPUT》）と出力信号レベル（《OUTPUT》）、およびゲインリダクションレベル（《GR》）の3種類のメーターで状態を表示しています。



#### THRESHOLDつまみ

エフェクトをかけ始めるレベル（スレッシュホルドレベル）を調節します。

設定範囲：-32dB ~ 0dB（初期値：-12dB）

#### RATIOつまみ

入力音量の圧縮率を設定します。

右へ回すほど圧縮率が高くなり、圧縮幅が増加します。

設定範囲：1.0 : 1 ~ inf : 1（初期値：2.0 : 1）

#### ATTACKつまみ

入力音量がスレッシュホルドレベルを超えた場合に、《RATIO》つまみで設定された圧縮率までに達するまでの時間を設定します。

設定範囲：2ms ~ 200ms（初期値：20ms）

#### RELEASEつまみ

入力音量がスレッシュホルドレベルより下がった後、圧縮が解除され通常のレベルに戻るまでの時間を設定します。

設定範囲：10ms ~ 1000ms（初期値：420ms）

#### GAINつまみ

出力音量の増幅幅を設定します。

コンプレッサーでは音量の圧縮を行うため、入力音に比べ出力音のレベルは低くなります。《GAIN》つまみで出力音を増幅させることにより、入力音に近いレベルに戻すことができます。

設定範囲：0dB ~ 32dB（初期値：4dB）

### メモ

- 入力がステレオ信号（ステレオリンクしているチャンネルまたはマスター）の場合は、LチャンネルまたはRチャンネルのどちらか一方でもスレッシュホルドレベルを超えると圧縮動作が始まり、LチャンネルおよびRチャンネルの両方の音が圧縮されます。
- コンプレッサーがオフのときは、コンプレッサーのカーブは表示しますが、メーターの表示はしません。

## 第5章 ミキサーパネルの設定

### NOISE SUPPRESSOR (ノイズサプレッサー)

スレッシュホールドレベルより音が小さいときに出力レベルを絞ることによりノイズを減衰させ、スレッシュホールドレベルを超えた際には通常のレベルで音を出すエフェクターです。

演奏あるいは発音していないときのノイズを軽減する用途に使用します。



#### THRESHOLDつまみ

エフェクトをかけ始める／かけなくするレベル（スレッシュホールドレベル）を調節します。

**設定範囲：**－84dB ～－24dB（初期値：－64dB）

#### SUPPRESSIONつまみ

入力音量がスレッシュホールドレベルより下がったとき、どの程度出力レベルを減衰させるかの量を設定します。

大きな値に設定するほど出力レベル、ノイズが大きく減衰します。

**設定範囲：**12dB ～ 72dB（初期値：42dB）

#### ATTACKつまみ

入力音量がスレッシュホールドレベルより下がった場合に、目標の減衰量まで達する時間を設定します。

**設定範囲：**0ms ～ 4000ms（初期値：5ms）

#### RELEASEつまみ

入力音量がスレッシュホールドレベルを超えた場合に、減衰効果がなくなるまでの時間を設定します。

**設定範囲：**0ms ～ 4000ms（初期値：320ms）

#### メモ

入力がステレオ信号（ステレオリンクしているチャンネルまたはマスター）の場合は、LチャンネルおよびRチャンネルの両方がスレッシュホールドレベルを下回るとノイズサプレッサーが動作します。

### DE-ESSER (ディエッサー)

高音領域に特化したコンプレッサーです。ボーカルの「サシスセン」や「ツ」など高音のきつい発音を和らげるのに用います。



#### FREQUENCYつまみ

どの周波数以上の音でディエッサーを動作させるかを設定します。

**設定範囲：**1kHz ～ 4kHz（初期値：1.15kHz）

#### DEPTHつまみ

圧縮の度合いを設定します。

値が大きいほど圧縮が大きくなります（ディエッサー効果が大きくなります）。

**設定範囲：**1 ～ 100（初期値：25）

### EXCITER (エキサイター)

元の音を維持したまま高域の倍音を強調することにより音をくっきり・きらびやかにするエフェクターです。



#### FREQUENCYつまみ

どの周波数以上の倍音を強調するかを設定します。

**設定範囲：**1kHz ～ 4kHz（初期値：2.00kHz）

#### DEPTHつまみ

倍音強調の度合いを設定します。

値が大きいほどより強く強調されます。

**設定範囲：**1 ～ 100（初期値：75）

## EQ (3バンドイコライザー)

特定の周波数帯域を増幅あるいは減衰させるエフェクターです。個々の楽器の色付けや、幅広い帯域のバランス調整や余分な帯域のピンポイント・カットなどに使用します。



現在の設定での周波数特性を表示します (EQがオフのときもグラフは表示されます)。

HIGHバンドはハイシェルフ（棚型）イコライザー、LOWバンドはローシェルフ（棚型）イコライザー、MIDバンドはピーキング（ベル型）イコライザーです。

### LOW GAINつまみ

LOWバンドの増幅・減衰量を設定します。

**設定範囲**：±12dB（初期値：0dB）

### LOW FREQつまみ

LOWバンドのカットオフ周波数を設定します。

**設定範囲**：32Hz～1.6kHz（初期値：100Hz）

### MID GAINつまみ

MIDバンドの増幅・減衰量を設定します。

**設定範囲**：±12dB（初期値：0dB）

### MID FREQつまみ

MIDバンドのセンター周波数を設定します。

**設定範囲**：32Hz～18kHz（初期値：1.0kHz）

### MID Qつまみ

MIDバンドの尖鋭度（尖り具合）を設定します。

値が大きいほど尖った特性になり、狭い範囲の周波数帯域に作用します。

値が小さいほどなだらかな特性になり、広い範囲の帯域に作用します。

**設定範囲**：0.25～16（初期値：0.5）

### HIGH GAINつまみ

HIGHバンドの増幅・減衰量を設定します。

**設定範囲**：±12dB（初期値：0dB）

### HIGH FREQつまみ

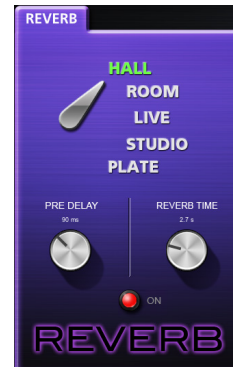
HIGHバンドのカットオフ周波数を設定します。

**設定範囲**：1.7kHz～18kHz（初期値：10kHz）

## センドエフェクト

### REVERB (リバーブ)

原音に対して残響を加えるエフェクターです。原音を様々な時間で遅延させた複数の音を自然に近い対時間減衰特性を持たせて混ぜることにより、ホール、ライブハウスやスタジオのような残響を生み出します。



### リバーブタイプ選択スイッチ

リバーブタイプを選択します。

リバーブタイプによって残響音の密度やレベルが変化します。

**選択肢**：HALL（初期値）、ROOM、LIVE、STUDIO、PLATE

### PRE DELAYつまみ

初期反射音の遅延時間を設定します。

値が大きいほど、広い空間の反射音となります。

**設定範囲**：0ms～250ms（初期値：42ms）

### REVERB TIMEつまみ

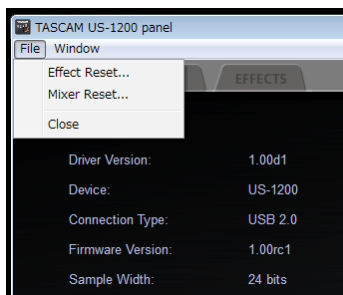
残響音の持続時間を設定します。

値が大きいほど残響音が長く持続します。

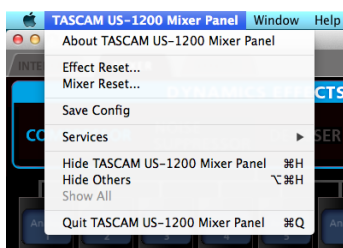
**設定範囲**：0.1s～10s（初期値：2.7s）

### 設定の初期化（リセット）

ミキサーの設定またはエフェクトの設定を初期化（リセット）するには、メニューバーにある《File》メニュー（Windows）または《TASCAM US-1200 Mixer Panel》（Mac）から操作を行います。



[ミキサーパネル Windows版]



[ミキサーパネル Mac版]

#### Effect Reset項目

《EFFECTS》タブ画面内の全ての設定項目を初期化します。（→ 24ページ「エフェクト設定の初期化」）

#### Mixer Reset項目

《MIXER》タブ画面内の設定項目を初期化します。（→ 25ページ「ミキサー設定の初期化」）

#### Close項目

ミキサーパネルを閉じます。

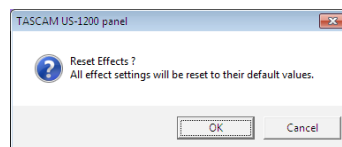
### エフェクト設定の初期化

《EFFECTS》タブ画面内の全ての設定項目を初期化します。

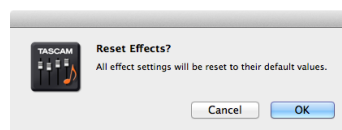
#### 注意

初期化を行うと、以前の設定に戻すことはできません。

1. メニューバーの《File》メニュー（Windows）または《TASCAM US-1200 Mixer Panel》（Mac）から《Effect Reset...》項目をクリックします。  
以下の確認メッセージが表示されます。



[確認メッセージ Windows版]



[確認メッセージ Mac版]

2. メッセージ内の《OK》ボタンをクリックし、エフェクトの設定を初期値に戻します。  
初期化される項目は、以下の通りです。

- **COMPRESSOR**  
THRESHOLD、RATIO、ATTACK、RELEASE、GAIN
- **NOISE SUPPRESSOR**  
THRESHOLD、SUPPRESSION、ATTACK、RELEASE
- **DE-ESSER**  
FREQUENCY、DEPTH
- **EXCITER**  
FREQUENCY、DEPTH
- **EQ**  
全帯域（LOW、MID、HIGH）のGAIN、FREQとMIDのQ
- **REVERB**  
ROOM TYPE、PRE DELAY、REVERB TIME

#### メモ

- 《Cancel》ボタンをクリックすると初期化せずに、ミキサーパネルに戻ります。
- 《Effect Reset...》項目で初期化されないダイナミクスエフェクト、またはセンドエフェクトのオン／オフやダイナミクスエフェクトのアサインなどの項目は、《Mixer Reset...》を行った場合に初期化されます。各エフェクトの設定の初期値については、各エフェクトの詳細をご参照ください。

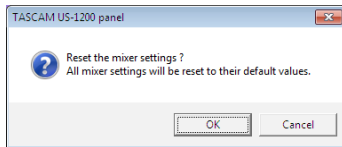
## ミキサー設定の初期化

《MIXER》タブ画面内の設定項目を初期化します。

### 注意

初期化を行うと、以前の設定に戻すことはできません。

1. メニューバーの《File》メニュー (Windows) または《TASCAM US-1200 Mixer Panel》(Mac) から《Mixer Reset...》項目をクリックします。  
以下の確認メッセージが表示されます。



[確認メッセージ Windows版]



[確認メッセージ Mac版]

2. メッセージ内の《OK》ボタンをクリックし、ミキサーなどの設定を初期値に戻します。  
初期化される項目および初期値は、以下の通りです。

### 《INTERFACE》タブ画面の以下の項目

- LINE OUTPUTS 1-2 : mixer output L-R

### 《MIXER》タブ画面の以下の項目

- ダイナミクスエフェクト : オフ
- ダイナミクスエフェクトのアサインボタン : オフ
- エフェクトセンド選択ボタン (全チャンネル) : POST
- センドつまみ (全チャンネル) : 127
- SOLOボタン (全チャンネル) : オフ
- MUTEボタン (全チャンネル) : オフ
- パンスライダー (全チャンネル) : 《C》 センター
- チャンネルフェーダー (全チャンネル) : 0dB
- LINKボタン (全ペアチャンネル) : オフ
- MON MIXスライダー : 中央
- センドエフェクト : オフ
- SENDつまみ : 127
- RETURNつまみ : 64
- マスターフェーダー : 0dB

### メモ

《Cancel》ボタンをクリックすると初期化せずに、ミキサーパネルに戻ります。

## 第6章 アプリケーションガイド

ここでは、いくつかのオーディオアプリケーションと組み合わせて使用する場合の各設定方法をご紹介します。

### ソフトウェアDAW

ソフトウェアDAWは、そのDAWによって設定方法が異なります。ソフトウェアDAWをご使用の場合は、DAWの取扱説明書をご参照ください。

## Windows XP と Windows Media Player

1. 全てのアプリケーションを終了し、《スタート》より《コントロールパネル》を開きます。
2. 《サウンドとオーディオ デバイス》をクリックし、《サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ》画面を開きます。

### メモ

上記項目が見あたらない場合は、《サウンド、音声、およびオーディオデバイス》をクリックした後に表示されます。



3. 《オーディオ》タブをクリックし、《オーディオ》タブ画面を表示します。
4. 《音の再生》項目の《既定のデバイス》を《TASCAM US-1200》に設定します。



### メモ

本機を録音デバイスとして使う場合には、《録音》項目の《既定のデバイス》を《TASCAM US-1200》に設定します。

5. 設定が終了したら、《OK》ボタンをクリックします。
6. Windows Media Playerを起動し、オーディオファイルを選択して再生を行ってください。

### メモ

- Windows Media Playerを起動した状態で設定を行った場合は、Windows Media Player側でデバイスの切り換えが認識されません。この場合は、Windows Media Playerを再起動してください。
- 上記設定／操作を正しく行っても音が出ない場合は、USBケーブルを抜いてパソコンを再起動してください。
- この設定を行うと本機経由で音は出ますが、パソコンのスピーカーやヘッドホン端子からは音は出なくなります。
- 初期値では、ミキサーの設定でパンがセンター《C》になっているため、再生音がモノラルに聴こえます。必要に応じて内蔵ミキサーの設定を行ってください。(→ 18ページ「《MIXER》タブ画面」)

## Windows 7 と Windows Media Player

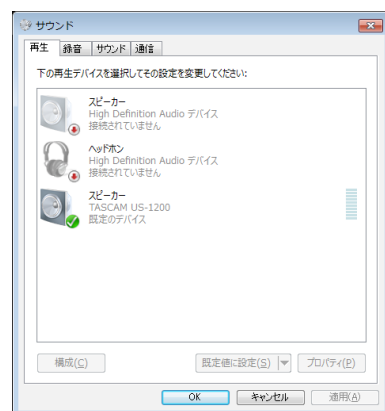
1. 全てのアプリケーションを終了し、スタートボタンより《コントロールパネル》を開きます。
2. 《サウンド》画面を開きます。

### メモ

上記項目が見あたらない場合は、《ハードウェアとサウンド》をクリックした後に表示されます。



3. 《再生》タブ画面の《スピーカー TASCAM US-1200》を右クリックし、表示されたポップアップメニュー内の《既定のデバイスとして設定》をクリックします。  
このとき、緑のチェックマーク(《✓》)が《スピーカー TASCAM US-1200》に移動します。



### メモ

本機を録音デバイスとして使う場合には、《録音》タブ画面の《ライン入力 TASCAM US-1200》を《既定のデバイスとして設定》に設定します。

4. 設定が終了したら、《OK》ボタンをクリックします。
5. Windows Media Playerを起動し、オーディオファイルの再生を行ってください。

### メモ

- Windows Media Playerを起動した状態で設定を行った場合は、Windows Media Player側でデバイスの切り換えが認識されません。この場合、Windows Media Playerを再起動してください。
- 上記設定／操作を正しく行っても音が出ない場合は、USBケーブルを抜いてパソコンを再起動してください。
- この設定を行うと本機経由で音は出ますが、パソコンのスピーカーやヘッドホン端子からは音は出なくなります。
- 初期値では、ミキサーの設定でパンがセンター《C》になっているため、再生音がモノラルに聴こえます。必要に応じて内蔵ミキサーの設定を行ってください。(→ 18ページ「《MIXER》タブ画面」)



## Windows 8 と Windows Media Player

1. 全てのアプリケーションを終了し、スタート画面上で右クリックして表示されるアプリバーの《すべてのアプリ》ボタンをクリックしアプリ画面を表示します。

### メモ

Windows 8.1では、スタート画面左下にある↓アイコンをクリックしてアプリ画面を表示します。

2. 《コントロールパネル》をクリックします。
3. 《ハードウェアとサウンド》をクリックして開いた後、《サウンド》画面を開きます。
4. 《再生》タブ画面の《スピーカー TASCAM US-1200》を右クリックし、表示されたポップアップメニュー内の《既定のデバイスとして設定》をクリックします。  
このとき、緑のチェックマーク(《✓》)が《スピーカー TASCAM US-1200》に移動します。



### メモ

本機を録音デバイスとして使う場合には、《録音》タブ画面の《ライン入力 TASCAM US-1200》を《既定のデバイスとして設定》に設定します。

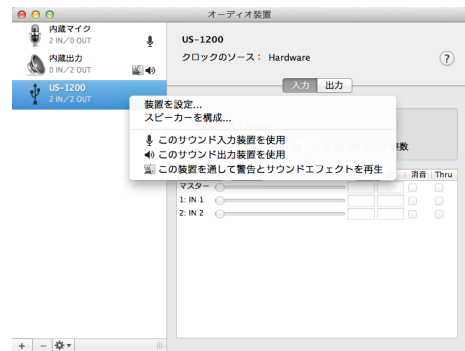
5. 設定が終了したら、《OK》ボタンをクリックします。
6. Windows Media Playerを起動し、オーディオファイルを選択して再生を行ってください。

### メモ

- Windows Media Playerを起動した状態で設定を行った場合は、Windows Media Player側でデバイスの切り換えが認識されません。この場合、Windows Media Playerを再起動してください。
- 上記設定／操作を正しく行っても音が出ない場合は、USBケーブルを抜いてパソコンを再起動してください。
- この設定を行うと本機経由で音は出ますが、パソコンのスピーカーやヘッドホン端子からは音は出なくなります。
- 初期値では、ミキサーの設定でパンがセンター《C》になっているため、再生音がモノラルに聴こえます。必要に応じて内蔵ミキサーの設定を行ってください。(→ 18ページ「[MIXER]」タブ画面)

## Mac OS X と iTunes

1. 《アプリケーション》フォルダー内の《ユーティリティ》フォルダー内にある《オーディオMIDI設定》をダブルクリックし、《オーディオ装置》画面を開きます。
2. 《US-1200》をクリックして選択し、右クリックまたはcontrolキーを押しながら《US-1200》をクリックして表示されるポップアップメニュー内の《このサウンド出力装置を使用》をクリックします。  
スピーカーのマークが《US-1200》に移動します。



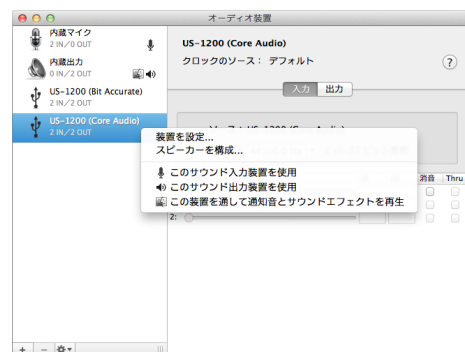
### メモ

本機を録音デバイスとして使う場合には、《US-1200》を《このサウンド入力装置を使用》に設定します。

3. iTunesを起動し、オーディオファイルを選択して再生を行ってください。

## OS X Mavericks (10.9) でのオーディオMIDI設定について

OS X Mavericks (10.9) では《オーディオ装置》に《US-1200 (Bit Accurate)》と《US-1200 (Core Audio)》の2つの装置が表示されますが、《US-1200 (Bit Accurate)》を入力装置および出力装置として使用することはできません。  
《US-1200 (Core Audio)》を使用してください。



### メモ

- DAWなどで《US-1200 (Bit Accurate)》が選択できる場合には、こちらを使用した方がより安定した録音・再生が行えます。
- 《US-1200 (Bit Accurate)》は、Mac App storeからダウンロードしたアプリでは使用できません。その場合には、《US-1200 (Core Audio)》をご使用ください。

## 第7章 トラブルシューティング

本取扱説明書の手順通り設定しても、本機が正常に使用できない場合は、まずは本章をご確認ください。

本章で解決できない場合は、タスカムカスタマーサポートまで、下記のご使用環境と、詳しい状況をお知らせいただきますようお願い致します。

### ご使用環境

- パソコンメーカー                   :
- モデル                                   :
- CPU                                     :
- 搭載メモリー                         :
- OS                                       :
- 使用アプリケーション               :
- ウイルス対策ソフト                 :
- 無線LANの有無                       :

お問い合わせ先につきましては、巻末をご参照ください。

### インストールできない。

#### インストールしたがパソコンに認識されない。

↓

何らかの問題が発生し、インストールに失敗する、またはインストールは完了したがパソコンに認識されない場合は、下記をご確認ください。

#### 1) USBポートの差し替え

USBポートによっては本機が正常に動作しない場合がありますので、パソコン本体の別のUSBポート（オンボードの）に接続して、再度インストールをお試しください。

#### メモ

- その他のUSB機器は、接続せずにお試しください（USBキーボード・USBマウスは、接続しても構いません）。
- USBハブはご使用にならず、必ずパソコン本体の（オンボードの）USBポートに接続してください。

#### 2) 常駐ソフトの停止

アンチウイルスソフトなどの常駐ソフトがインストールの妨げとなる場合がありますので、インストール前に終了してください。

ドライバーのアンインストール／インストール方法は、本取扱説明書の9ページ「ドライバーをインストールする」をご参照ください。

### オーディオを再生しても音が出ない。

↓

パソコン側で音声出力の設定が必要です。

本機をパソコンに接続した状態で下記をご確認ください。なお、以下の設定を行うと本機経由で音は出ますが、パソコンのスピーカーやヘッドホン端子から音は出なくなります。

#### ● Windows 8 / 7 / XP

第6章の各OSに合わせた設定を行ってください。

Windows 8は手順1. ～ 4.を、Windows 7 / XPは手順1. ～ 3.を行い再生時の既定デバイスに設定してください。

#### ● Mac OS X

1. 全てのアプリケーションを終了し、アップルメニューより《システム環境設定...》画面を開きます。
2. 《サウンド》を開きます。
3. 《出力》タブから《US-1200》を選択します。

設定が完了しましたら、パソコンを再起動し、再生音をご確認ください。また、お使いのアプリケーションによっては、上記とは別にデバイス設定を行う必要がある場合があります。特にDAWをご使用時には、上記OSの設定とは別のオーディオエンジンで動作していますので、本機のドライバーをインストール後、先にDAWのドライバー設定をご確認ください。

お使いのアプリケーションの詳しい設定方法については、各マニュアルをご参照ください。

### 音切れやノイズが発生する。

↓

パソコンの負荷が原因で音切れやノイズが発生します。  
パソコンの負荷を軽減させる方法を下記にご紹介致します。

- 1) 無線LANやアンチウイルスソフトなどの常駐ソフトがバックグラウンドで動作している場合は、定期的な負荷がかかり、音切れやノイズの原因となります。  
無線LANの通信を停止、アンチウイルスソフトなどの常駐ソフトを停止してご使用ください。
- 2) お使いのオーディオアプリケーション、あるいは本機のみキサーパネルにてバッファサイズ（レイテンシー）の設定を大きくすることをお試しください。

#### メモ

オーディオアプリケーション側でパソコンへの負荷を減らす方法を、オーディオアプリケーションのメーカー様にお問い合わせください。

- 3) パソコンをオーディオ処理に適した設定に変更してください。

#### ● Windows 8

1. Windows 8の通常のスタート画面（メトロUI画面）で右クリックし、《すべてのアプリ》をクリックします。
2. 《コンピュータ》を右クリックし、《プロパティ》を選択します。
3. 《システムの詳細設定》をクリックします。
4. 《システムのプロパティ》画面の《詳細設定》タブで、《パフォーマンス》枠の《設定...》をクリックします。
5. 《パフォーマンスオプション》画面の《視覚効果》タブで、《パフォーマンスを優先する》を選択します。

#### ● Windows 7

##### a) 《Aero》（エアロ）を《OFF》に設定

1. デスクトップを右クリックし、《個人設定》を選択します。
2. テーマを《ベーシックテーマとハイコントラストテーマ》の中から選択します。

##### b) パフォーマンス設定

1. 《コンピュータ》を右クリックし、《プロパティ》を選択します。
2. 《システムの詳細設定》をクリックします。
3. 《システムのプロパティ》画面の《詳細設定》タブで、《パフォーマンス》枠の《設定...》をクリックします。
4. 《パフォーマンスオプション》画面の《視覚効果》タブで、《パフォーマンスを優先する》を選択します。

#### ● Windows XP

1. 《マイ コンピュータ》を右クリックし、《プロパティ》を選択します。
2. 《詳細設定》タブをクリックします。
3. 《パフォーマンス》枠の《設定》をクリックします。
4. 《パフォーマンスオプション》画面で、《パフォーマンスを優先する》を選択します。

#### ● Mac OS X

1. アップルメニューより《システム環境設定...》画面を開き、《省エネルギー》を選択します。
2. 《コンピュータのスリープ》を《しない》に設定します。
3. 《ディスプレイのスリープ》を《しない》に設定します。

#### メモ

Mac OS Xのバージョン、またはMacintoshコンピューターによっては、この設定がない場合があります。

### 音量がおかしい。

↓

ミキサー機能により、音量に影響している可能性があります。  
ミキサーパネルの《MIXER》タブ画面より、各種設定をご確認ください。

### 音質がおかしい。

↓

内蔵エフェクターがかかり、音質が変化している可能性があります。  
ミキサーパネルの《EFFECTS》タブ画面より、各種設定をご確認ください。

### SONAR LE のお問い合わせについて

↓

SONAR LE につきましては、弊社ではサポート外となります。  
ご使用については、SONAR LE のヘルプメニューをご参照頂きますようお願いいたします。

### Ableton live lite のお問い合わせについて

↓

Ableton live lite につきましては、弊社ではサポート外となります。  
ご使用については、Ableton live lite のヘルプメニューをご参照頂きますようお願いいたします。

## 第8章 仕様

### 定格

#### サンプリング周波数

44.1k/48k/88.2k/96k Hz

#### 量子化ビット数

16 / 24ビット

### アナログオーディオ入出力定格

#### アナログオーディオ入力定格


##### マイク入力 (MIC IN 1-4)

###### バランス

コネクター : XLR-3-31相当  
(1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)  
入力インピーダンス : 2.2k $\Omega$   
規定入力レベル (ゲインつまみMAX時)  
: -68dBu (0.0003Vrms)  
規定入力レベル (ゲインつまみMIN時)  
: -22dBu (0.0616Vrms)  
最大入力レベル : -6dBu (0.3884Vrms)  
ヘッドルーム : 16dB

##### ギター入力 (GUITAR 5-6)

###### アンバランス

(GUITAR / LINE INスイッチを「 GUITAR」に設定時)

コネクター : 6.3mm (1/4') TS標準ジャック  
(Tip : HOT、Sleeve : GND)  
入力インピーダンス : 800k $\Omega$   
規定入力レベル (ゲインつまみMAX時)  
: -51dBV (0.0028Vrms)  
規定入力レベル (ゲインつまみMIN時)  
: -6dBV (1.995Vrms)  
最大入力レベル : +10dBV (3.162Vrms)  
ヘッドルーム : 16dB

##### ライン入力 (LINE IN 5-6)

バランス (GUITAR / LINE INスイッチを「 LINE IN」に設定時)

コネクター : 6.3mm (1/4') TRS標準ジャック  
(Tip : HOT、Ring : COLD、Sleeve : GND)  
入力インピーダンス : 10k $\Omega$   
規定入力レベル (ゲインつまみMAX時)  
: -41dBu (0.0069Vrms)  
規定入力レベル (ゲインつまみMIN時)  
: +4dBu (1.228Vrms)  
最大入力レベル : +20dBu (7.75Vrms)  
ヘッドルーム : 16dB

#### アナログオーディオ出力定格

##### 出力 (OUTPUT (BALANCED) L / R)

コネクター : 6.3mm (1/4') TRS 標準ジャック  
(Tip : HOT、Ring : COLD、Sleeve : GND)  
出力インピーダンス : 100 $\Omega$   
規定出力レベル : +4dBu (1.273Vrms)  
最大出力レベル : +24dBu (12.283Vrms)

##### ヘッドホン出力 (PHONES)

コネクター : 6.3mm (1/4') ステレオ標準ジャック  
最大出力 : 50mW+50mW以上  
(THD+N 1%以下、32 $\Omega$ 負荷時)

### コントロール入出力定格

#### USB

コネクター : USB Bタイプ 4ピン  
転送速度 : USB 2.0 High Speed (480Mbps)

### オーディオ性能

#### 周波数特性

MIC IN  $\rightarrow$  OUTPUT (BALANCED)  
20Hz ~ 20kHz、 $\pm 1$ dB (44.1kHz、48kHz、JEITA)  
20Hz ~ 40kHz、 $\pm 2$ dB (88.2kHz、96kHz、JEITA)  
LINE IN  $\rightarrow$  OUTPUT (BALANCED)  
20Hz ~ 20kHz、 $\pm 1$ dB (44.1kHz、48kHz、JEITA)  
20Hz ~ 40kHz、 $\pm 2$ dB (88.2kHz、96kHz、JEITA)

#### S/N比

95dB以上 (MIC IN  $\rightarrow$  OUTPUT (BALANCED)、  
ゲインつまみMIN時、JEITA)  
95dB以上 (LINE IN  $\rightarrow$  OUTPUT (BALANCED)、  
ゲインつまみMIN時、JEITA)

#### 歪率

0.01%以下 (MIC IN  $\rightarrow$  OUTPUT (BALANCED)、  
1kHzサイン波、最大入力時、JEITA)  
0.01%以下 (LINE IN  $\rightarrow$  OUTPUT (BALANCED)、  
1kHzサイン波、最大入力時、JEITA)

#### クロストーク

90dB以上 (MIC IN  $\rightarrow$  OUTPUT (BALANCED)、1kHz)  
90dB以上 (LINE IN  $\rightarrow$  OUTPUT (BALANCED)、1kHz)

## 動作条件

最新の対応OS状況については、TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) ご確認ください。

### Windows

#### 対応OS

Windows 8 (8.1を含む) 32ビット  
 Windows 8 (8.1を含む) 64ビット  
 Windows 7 32ビット SP1以上  
 Windows 7 64ビット SP1以上  
 Windows XP 32ビット SP3以上  
 (Windows VistaおよびWindows XP 64ビットはサポート外)

#### 対応パソコン

USB2.0を装備したWindows 対応パソコン

#### CPU / クロック

デュアルコアプロセッサ 2GHz 以上 (x86)

#### メモリー

2GB以上

#### 注意

本機の動作確認は、上記のシステム条件を満たす標準的なパソコンを使って行われていますが、上記条件を満たすパソコン全ての場合の動作を保証するものではありません。同一条件下であっても、パソコン固有の設計仕様や使用環境の違いにより処理能力が異なります。

### Mac OS X

#### 対応OS

OS X Mavericks (10.9.1以降)  
 OS X Mountain Lion (10.8.4以降)  
 OS X Lion (10.7.5以降)  
 Mac OS X Snow Leopard (10.6.8以降)

#### 対応パソコン

USB2.0を装備したApple Macintoshシリーズ

#### CPU / クロック

デュアルコアプロセッサ 2GHz以上

#### メモリー

2GB以上

### 対応オーディオドライバー

ASIO2.0、WDM (MME)  
 Core Audio

## 一般

### 電源

専用ACアダプター (GPE248-120200-Z)

### 消費電力

5.5W

### 外形寸法

482.6 x 45 x 300.4mm (幅 x 高さ x 奥行き)

### 質量

2.9Kg

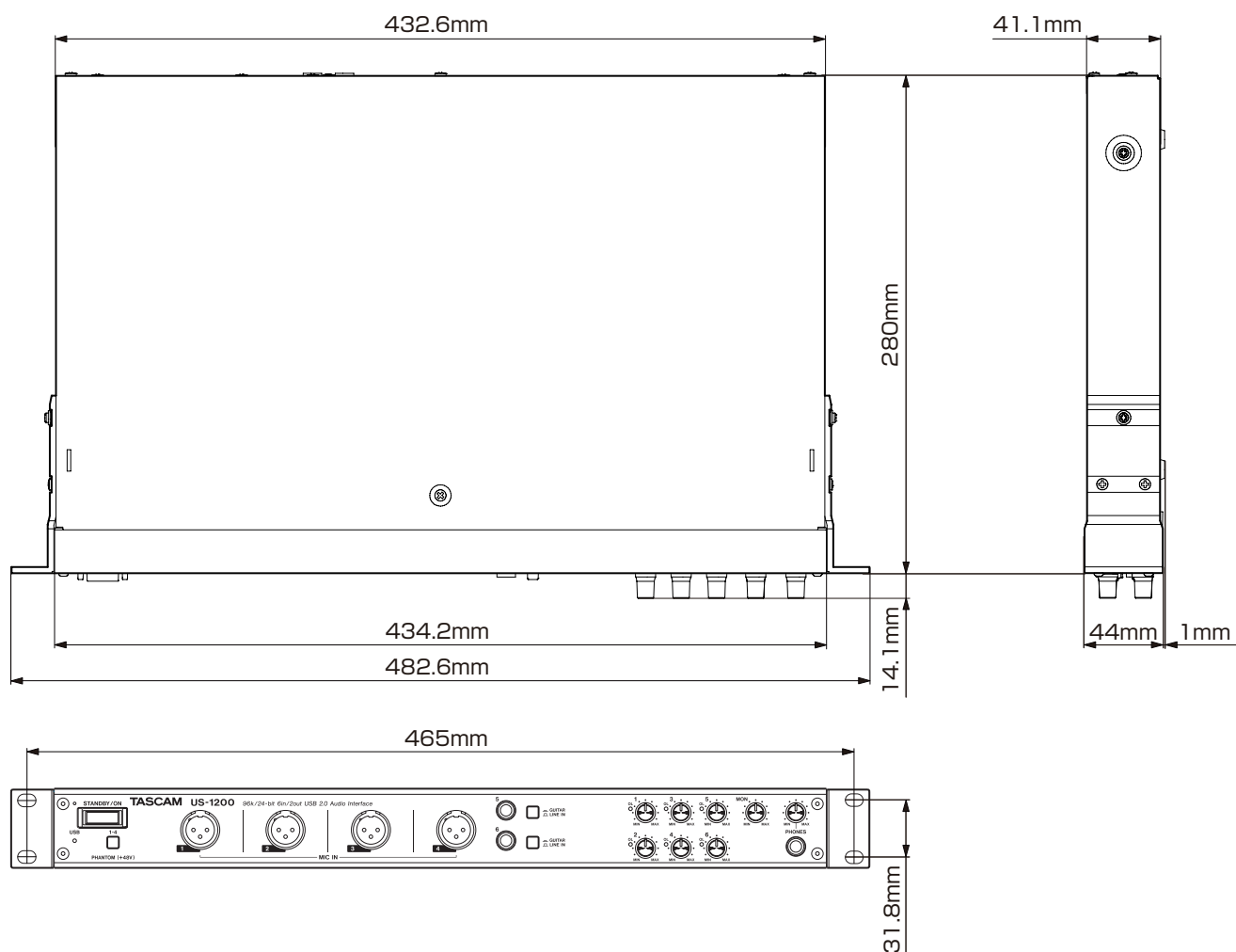
### 動作温度

5 ~ 35℃

### バンドルソフト

SONAR LE (Windows用)  
 Ableton Live Lite

## 寸法図

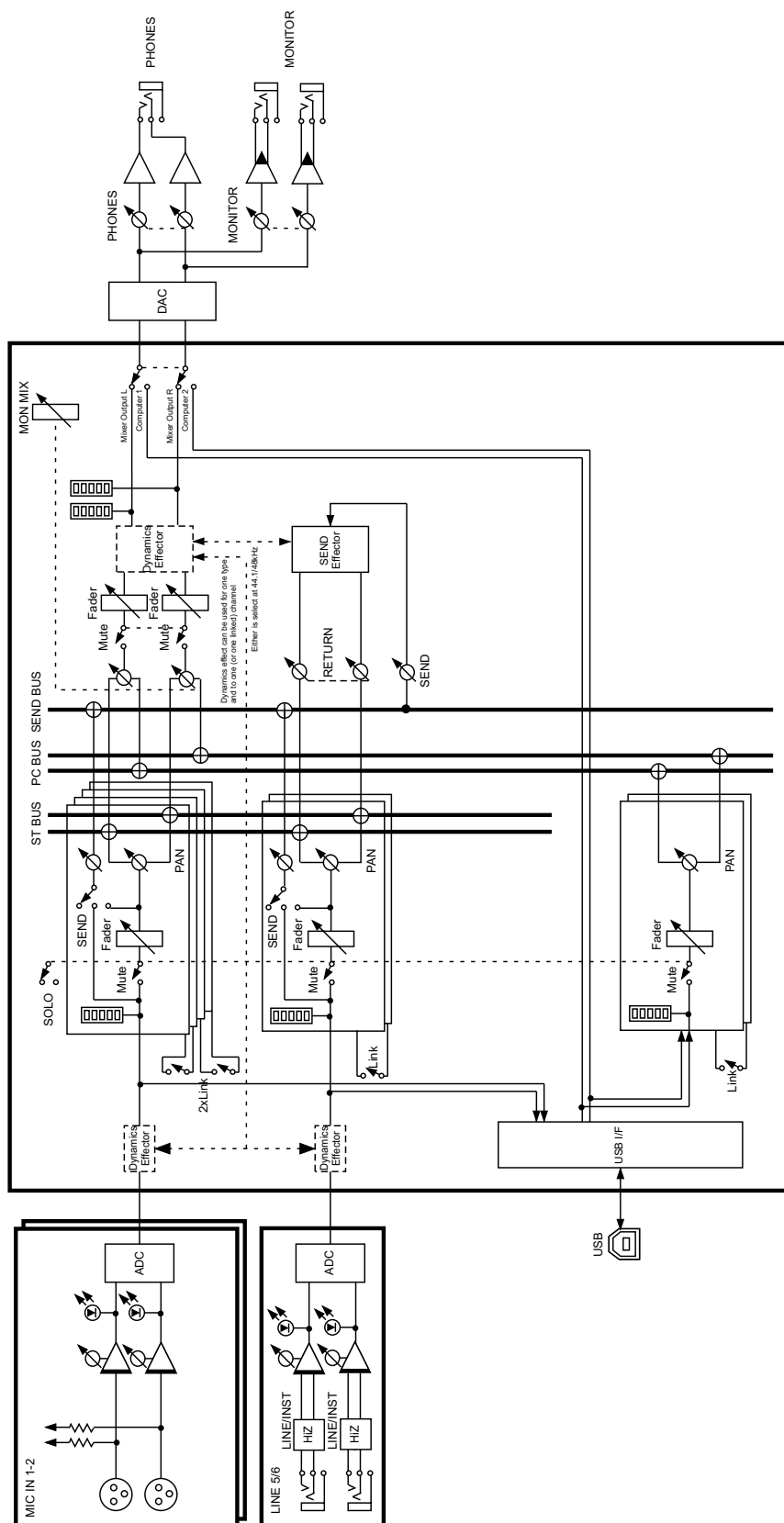


- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。



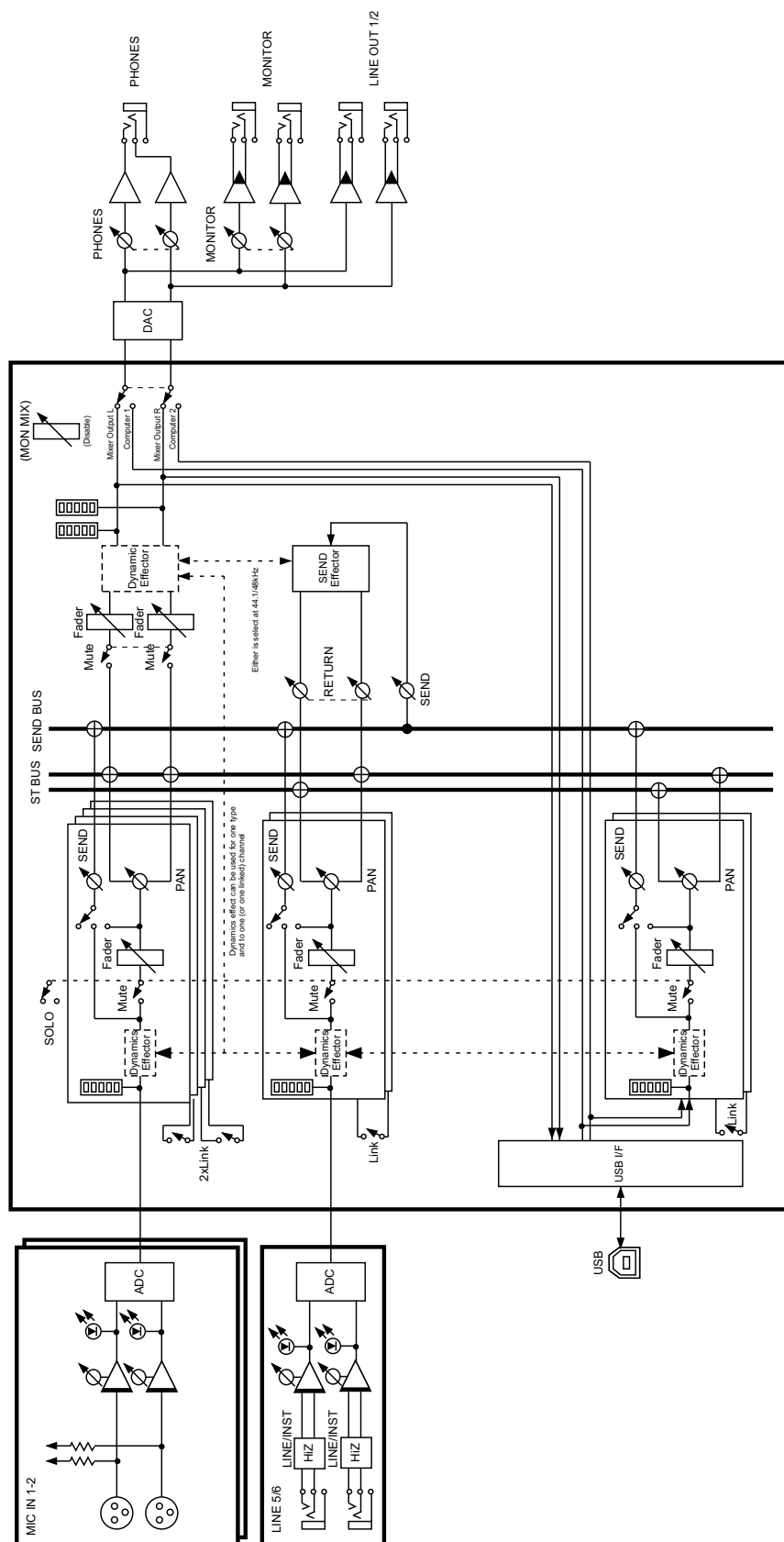
## オーディオフローダイアグラム

## マルチトラックモード



**US-1200 Multi Track Mode**  
rev. X03

## ステレオミックスモード



**US-1200 Stereo Mix Mode**  
rev. X03



## この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポートまでご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く10:00～12:00 / 13:00～17:00です。

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47



一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

**0570-000-809**

PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

## 故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。  
お問い合わせ受付時間は、日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858



一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

**0570-000-501**

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。  
PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

新電電各社をご利用の場合は、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。

このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

**ティアック株式会社**

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

<http://tascam.jp/>

Printed in China